

次期基本構想・基本計画の策定における市議会の意見・要望事項（案）

1 基本構想・基本計画の内容に関する提案事項

【市全体の未来像】

	提案内容	考え方・位置付け等	重要度
市 全 体 の 未 来 像	(1) 都市像・まちづくりの基本目標		
	① 国際海の手文化都市	「自然環境をはぐくみながら、人々がさまざまな交流を広げ、豊かでゆとりある安心した生活の実現」を目指す。	★★
	② 国際海洋文化都市	キーワード：ゆとりのある生活環境の実現、稼げる自治体づくり、安全安心のまちづくり、学力向上にむけて、異国情緒の体感、近現代史のまちづくり、海洋文化コミュニティ、デジタルガバメント、市民協働、人権、多様性	★
	(2) 基本的な考え方		
	① 共生 共生社会の実現	・一人ひとりの違いを尊重し、共に生きる社会が求められています。また、環境課題と我々の社会経済活動は不可分であり、持続可能な社会づくりが急務です。人と自然、人と人が同じ空間で生き、存在する共生が求められます。 ・本市が抱える諸課題を乗り越えるための共生社会の実現 ・多様な個性や価値観が認められ、基本的人権が尊重される「共に生きる社会」・「互いに支え合う横須賀」	★★★
	② 協働	異なる文化、価値観、新しい技術や情報を持つ、住民、地縁組織、団体、企業、他自治体など国内外のあらゆる主体と、相互によりパートナーとして影響しあいながら、協働する中で、これからの横須賀を形作ります。	★
	③ 創造	都市活力を維持し、持続的な発展を図るためには、これまでの慣習や概念にとらわれることなく、常に新しいことに挑戦していく姿勢を持つとともに、貴重な地域資源を創造的に活用し、他の都市にない魅力を備えることが必要となります。新たに考え、決断し、行動する創造が求められます。	★
	(3) 基本方針		
	① 人材育成、未来を創造する人財づくり	どちらかというと、人、ソフトに関するもの	★★
	② 稼げる自治体		★
	③ 日本一幸せなまち		★
	④ 誰もが安心して暮らせる多様性ある社会の実現	まちの価値観のようなもの	★
	⑤ 新たな暮らしかたの創造	どちらかというと、都市、ハードに関するもの	★
	⑥ 誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現		★
	(4) まちづくりの政策目標		
	① 安全・安心なまちづくり 安全安心で快適に暮らせるまち 暮らしの安心	・災害に強い都市構造、質の高い生活基盤、環境にやさしい循環型社会を築くとともに、ICT技術を積極的に活用し、都市生活の安全性とモラルを向上させる。 (※「IT活用」要素を入れたい) ・予防医療の充実などにより健康寿命を延ばし、居場所や生きがいのある都市	★★★★
	② 住み続けたいと思うまちづくり		★
	③ 誰もが健やかに暮らせるまち	性別・障害・人種・国籍・門地・年齢によらず多様性が常に尊重され、保健、福祉、医療の充実した、心のふれあいがある良好な生活環境のもとで、等しく、健やかに、安心して暮らすことができる。(※「ジェンダー平等」について入れたい)	★
	④ いきいきとした交流が広がるまち	地域資源を活用し、都市の魅力を向上させ、情報発信を行うとともに、人、もの、情報などの流れを支えるネットワークを形成し、多様な人の需要を積極的に把握し、それに応え、市外から多くの人を訪れるまちをつくる。	★
	⑤ 海と緑を生かした活気あふれるまち	本市の財産である自然を守り、育て、創造的に活用する。豊かな自然の中で、しごとと暮らしを分断させることなく共に充実させ、横須賀で働き、学び、遊ぶことに喜びを感じられる新しい暮らしのできるまちをつくる。(※コロナ後のまちづくりについて入れたい)	★
	⑥ 個性豊かな人と文化が育つまち	子どもが健やかに育ち、若者が活躍し、誰もが生涯を通じて自己実現・学びの機会を得られ、横須賀ならではの地域文化の保存や新しい文化の創造にとりくめるまちをつくる。(※「若者」要素を入れたい)	★
	(5) まちづくりの推進姿勢		
	① 地域特性を活かした自立した自治体		★
② 積極的な行財政改革の推進や地方分権拡充への努力	中央主導の政策に依存、追従するのではなく、自立性を持って、新しい課題に対応できる効率的な都市経営を行う。	★	

【分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）】

	提案内容	重要度
分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）	<p>(1) 災害や犯罪に強いまちづくり、防災減災対策、災害対策・防災まちづくり</p> <p>① 犯罪・災害等を未然に防ぐ取り組み</p> <p>② 弱者が不安を感じない街、災害に負けないまちづくり</p> <p>③ 老朽化が課題となっている水道事業に対する防災対策、災害時にも業務遂行を可能とする行政施設に関する防災対策</p> <p>④ ライフラインの強靱化をはじめ、深刻化する災害に対応可能な行政力をつける</p>	★★★★★
	<p>(2) 日本一子育てしやすい街づくり、子どもがすこやかに育つ環境づくり、子育て・教育施策、教育・子ども・子育て</p> <p>① 子どもの貧困ゼロ、虐待ゼロ、自然に親しめるこどもファーストな環境づくり</p> <p>② 子どもの人口減少に対応した子育て・教育施策の策定、社会構造の変化に即した子育て環境の整備、先進的なオンライン教育の実現（GIGAスクール構想の実現、よこすか教育ネットワークを活用した各学校の特性を活かしたオンライン教育の実現、オンライン教育を活用した学力向上の実現）マイナポータルを活用した電子母子手帳の導入、市内情報通信系企業と教育関係機関が協働して遠隔教育コンテンツや技術を開発</p> <p>③ 未来を支える子どもの基礎学力の向上、未来を支える子どもの外国語学習の充実</p>	★★★★★
	<p>(3) 無駄のない街づくり、超高効率自治体づくり、情報通信技術の活用</p> <p>① 公共施設の持続可能なマネージメント、固定費の削減、効率化ICT・RPA・デジタルガバメント促進、スマート自治体への転換</p> <p>② AI・RPAの活用、デジタルガバメント（電子化）の実践、職員数削減、市役所に来ないでも何でもできる自治体、あらゆる政策領域へのデジタルの導入</p> <p>③ 行財政改革を目的としたデジタル・ガバメントの推進、AIの活用と各種電子申請の実現</p>	★★★★
	<p>(4) 産業構造の変革</p> <p>① 観光産業に次ぐ、医療分野の産業化支援、地域電子通貨の活用、BUY横須賀運動の展開、ソーシャルビジネスや小商いの挑戦者への支援</p> <p>② キャッシュレス決済店舗の拡充、eスポーツを活用した経済振興</p> <p>③ イノベーション（技術革新）を後押しする研究開発・生産性向上に結びつく支援のある横須賀</p>	★★★★
	<p>(5) 高齢者が安心して暮らせる街づくり、高齢者の住みやすいまちづくり</p> <p>① 健康寿命延伸に向けた健やかな生活習慣の形成のための高齢者の活躍の場の提供、市民へ提供する福祉サービスの改革、運転できなくても街なかに出ることを可能とするための買い物難民対策、地域の支え合いを推進するための高齢者対策、マイナンバーカード等を活用した高齢者に優しいキャッシュレス決済への取り組み、外出が困難な高齢者を対象としたリモート遠隔医療の実現、CCR誘致の検討</p> <p>② 高齢者の活力の充実のため、生涯学習のより一層の推進</p>	★★★★
	<p>(6) 研究機関との連携によるビジネスの創造、市内研究施設との先進的なまちづくり</p> <p>① YRP、NISE、JAMSTEC等の先端技術施設、研究施設との連携を進めた様々な実験フィールドとしての横須賀</p> <p>② 研究機関と連携した第1次産業の振興</p>	★★★★
	<p>(7) 観光政策の促進、観光を産業の柱にする観光立市推進施策の推進</p> <p>① マリンレジャー・マリンスポーツ、観光拠点の創設（よこすかアニメワールド）</p> <p>② 本市の有する海をテーマとした観光コンテンツの活用促進</p>	★★
	<p>(8) 地方分権と広域連携の推進</p> <p>① 広域医療連携（ゆりかごから墓場まで）</p> <p>② 三浦半島の4市1町連携強化</p>	★★
	<p>(9) ジェンダー平等</p> <p>① 男女共同参画および多様な性の在り方に関する理解促進と状況の一層の改善、クオータ制導入</p>	★★
	<p>(10) 若者や女性が暮らしやすいまちづくり、若者政策</p> <p>① 「子ども」ではない「若者」という切り口からの政策、まちづくりの主体としての若者、若者の居場所づくり</p>	★★
	<p>(11) 自然を楽しみながらしごとと暮らしが両立できるまちづくり</p> <p>① コロナ禍後に高まる郊外での職住近接、リモートワーク、ワーケーションなどの需要への積極対応</p> <p>② 市内通信インフラ環境の整備による多様なリモートワークの実現、よこすか教育ネットワークを活用した教職員の在宅による校務業務従事の実現</p>	★★
	<p>(12) 持続可能なまちづくり（SDGsの取り組みの推進）</p>	★★

【分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）】

	提案内容	重要度
分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）	(13) ユニバーサルな社会環境、インフラ整備におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン	★★
	(14) ポートビジネスの促進 ① 港湾機能の再編/利活用と強化の推進 久里浜港の機能強化と充実、久里浜港のポートセールス ② 戦略的港湾経営 横須賀新港の機能充実、横須賀新港第二岸壁の検討、横須賀新港のポートセールス ③ 佐島漁港の整備 ④ 海洋産業の促進	★
	(15) 民間企業の誘致 ① 通信網の整備 ② サテライトオフィスやオンライン勤務による通勤のいない職場環境の整備 ③ 民間が参入しやすい土地利用の規制緩和 ④ 付加価値や特化係数の高い企業が伸びやすい環境整備	★
	(16) 物流の拠点となる土地整備	★
	(17) 自然環境の保全/整備	★
	(18) 地域で助け合う街づくり ① 町内活動への補助制度の拡充	★
	(19) 地域で触れ合える街づくり ① 公園整備/整合	★
	(20) 地域交通の整備 ① 住んでいる地域に合った交通手段の整備	★
	(21) 住宅政策 ① 市営住宅の在り方、空き家適正管理、谷戸対策	★
	(22) 市民満足度向上	★
	(23) 触れ合いの場の創造 ① 地域コミュニティ/地域力の強化 ② トップアスリートとの連携 ③ 市内団体/学校の強化・育成	★
	(24) 海洋教育 ① 海洋生物、磯、海洋ごみ等キャリア教育、水辺安全教育 ② 海洋プラごみ等環境教育	★
	(25) 義務教育における教と育の住み分け ① I Tを活用し教の部分は個で、育は集団で	★
	(26) 広域幹線道路の整備促進 ① 国道357号線の延伸&周辺接続道路整備 ② 三浦半島中央道路の整備促進	★

【分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）】

	提案内容	重要度
分野別未来像・市政運営の基本姿勢（政策や施策に特に盛り込みたい要素）	(27) 拠点市街地整備 ① 再開発地域の整備促進	★
	(28) 市民協働	★
	(29) 知恵を出し合いみんなでつくる教育行政 ① 全教員の半数を占める若手の現場感覚を積極的に政策に反映、様々な団体・企業や新しい技術・道具の積極的活用、教育環境で選ばれる横須賀	★
	(30) 住民自治の向上 ① 個人から地域主体のまちづくりへ（特にがけ地対策・空き家対策・近隣トラブル解消など）、地域コミュニティの強化、行政センターの強化、地域のことは地域で解決、若者への主権者教育の強化	★
	(31) 多様性に対して優しいまち ① 性別・障害・人種・国籍・門地・年齢などを理由に差別されることのないまちづくり	★
	(32) 音楽や文化の醸成 ① いつでもどこでも音楽に触れられる街、様々な芸術を感じる街、サブカルチャーの聖地化	★
	(33) 海の可能性を最大限生かしたまちづくり ① 漁業や魚食を身近に感じられる仕組みづくり、釣りや自然と調和したマリンスポーツの環境整備、海岸美化	★
	(34) 多文化共生のまちづくり	★
	(35) 新しいコミュニティのありかた ① 社会的に孤立する人を生み出さない	★
	(36) 個人データの活用の推進 ① 市民の移動情報・健康状態の把握、新型コロナウイルス感染に関するデータベースの構築	★
	(37) 軍転法に基づく米軍基地の返還、跡地の有効活用	★
	(38) Y-HEART計画、東京湾口道路、ナショナルトレセン誘致等の開発計画を見直す	★
	(39) 再生可能エネルギー、自然エネルギー政策を進め、循環型社会の構築を目指す	★
	(40) 農漁業など地場産業を活性化し、雇用創出につなげ、国土保全をすすめる ① 食料品の供給体制を安定的に確保する。 ② 豊かな自然や第一次産業の生活文化を貴重な地域資源として観光交流事業を進める。	★
(41) 地域医療体制の充実 ① 医療・福祉・介護・保育士等が働きやすい環境の整備	★	
(42) 空間的（時間的）余裕のある横須賀	★	

## 2 基本構想・基本計画の策定手続き等において考慮してもらいたいこと

### (1) 計画策定に関する市民参加の機会について

- ① 基本的には、「市民とともに作る」ことを最重点事項としてほしい。
- ② 2009年10月に市長と話す車座会議で11会場727名のご意見をいただいていた。必ず市長と直接話してほしいということではないが、前回以上の意見聴取の努力がほしい。
- ③ 市民意見を伺う機会を設ける場合、徹底して方法を見直し、SNS、オンラインも活用し、年齢・性別幅広く意見を聴取してほしい。
- ④ 策定にあたって、若い市職員の意見を積極的に聴取しながら進めてほしい。

### (2) 総合計画審議会について

- ① 現行の基本計画策定時における総合計画審議会委員を見ると、公募委員で大学生がいたが、審議会委員という形で計画策定の一部に直接参加できる仕組みを、おそらくほとんどの市民が知らないので、**公募委員の募集に際しては周知徹底してほしい。**
- ② 計画策定にあたって、基本構想・基本計画のもつ意味と、若者が計画づくりに関与することでどのような効果が期待できるのかを、若者が説明を受けられる機会を設けてほしい。
- ③ 審議会においては、学識経験者のコメントの前に他の委員がたじろいでしまう。かつての審議会の議事録をみても、分科会形式で議論すれども、公募委員だった大学生3名は、発言しにくいだろうと思われるところが多々あった。さらにいえば、当時の特別委員会で「公募委員が若すぎた」との発言があるなど、せっかく若い人が入っても、こういうことを言われてしまいかねない。「若者」に関する専門家および若者当事者を、市側として意図をもって確保し、その発言機会についても、十分環境を配慮してほしい。
- ④ 極論を言えば、**審議会委員はほぼ全員、公募委員でよいのではないか。**少なくとも、分野別計画の策定に当たって、代表的な団体の意見聴取の機会があり、かつ委員の中には重複している事例も見受けられるため、公募委員の人数比率を高めてはどうか。

### (3) 策定後の公表方法について (※オープンデータの考え)

- ① 基本計画策定に活用したデータについては、今後だれでも自由に分析し、市へ提案を行えるよう、csv形式など分析が容易な形式で、zip形式などでまとめて市webサイトから一括でダウンロード可能にしてほしい(一つ一つダウンロードするのは大変)。基本計画のpdfファイルとあわせて、市webサイトに掲載してほしい。
- ② 紙冊子で見やすいものと、スマートフォン等のデジタルデバイスで見やすいものの両方を用意してほしい。
- ③ 紙冊子をpdf化したものをwebサイトに掲載しダウンロード可能にしておくだけでは、市民は読まない。スマートフォンで閲覧してもその要点が理解できるレイアウトの読み物や、SNSや街中にポスター掲示する際に目を引きやすいように要点をアイコンやグラフで表現したものなど、良い意味で「行政っぽくない」ものも、合わせて用意してほしい。

### (4) 6月19日特別委員会提出資料 1-1 (◎次期基本計画・基本策定の考え方) 3 策定の考え方の(2)構成の計画構成(イメージ)について

- ① 分野の選定についてしっかりとした議論を期待する。
- ② この作業を進めるためには、執行部自身が現行計画をどう評価するか、議員側も問題意識を共有することも大事ではないかと考える。

### (5) その他

- ① 人口減少と超少子高齢化の時代を迎えるにあたり、日本において、特に横須賀においては今のフォーキャストでは良い展望が基本的には見当たらない。  
課題だらけの状況が分かっている中で必要なことは強みにフォーカスすること。その強みを圧倒的に伸ばさない限り解決には進まない。
- ② 行政の取り組みを進化させる事はもちろん市民の主体性を高め行動のうねりをつくる。
- ③ コロナの影響で都心で暮らす人々の脳裏に首都圏以外の暮らしという選択肢が少しだけ入りつつある中で、中心首都圏以外の全ての自治体が「自然が豊富で」とか同じような発信をしながら、都心からの人の移動に口を開けて待っている。横須賀もその他大勢になってはいけない。
- ④ 先日のコンサルのプレゼンで解明できていない真の街の魅力。単純に他市との比較や数字で表すことの出来ない点を探し、そこにスポットをあてた響く点が探していけるか。  
8割の人に響かなくても2割のファンが動きだすための点を探る。
- ⑤ 一般的なデータではない「ファンやコアファン」が横須賀の何を好み、何に熱狂しているのかを調べて、そこに訴求する。誰がファンなのか。一般的な無作為なアンケートではこれから必要な情報は入ってこない。  
主体性を高める。
- ⑥ ファンベースを根底に8年間で主体的な街づくりを始める。
- ⑦ 一般的な情報は届かなくなるがコミュニティの情報交換の速度と深さは増していく。
- ⑧ 主体性の向上と自己解決手段の提供